

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	新見市立新見南中学校
コ ー ス	学校支援コース
活動・研究のテーマ	なんプロでひと・地域・未来とつながる

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至る経緯

総合的な学習の時間においてこれまで各学年で行っていた地域に関する学習を見直し、3年間を通して地域的人的・物的資源を生かしながら課題を探究し、自分の考えを発信する活動を通して、自分の生き方やまちの未来について考える「南中みらいプロジェクト学習」（なんプロ）として再編した。

2. 活動・研究の目的(ねらい)

文化祭「煌南祭」をゴールに見据え、各学年が「福祉」「防災」「魅力発信」に関する課題探究学習に取り組む。地域の課題を探究する学習活動を通して、課題を自分事として捉え、主体的に地域や社会に貢献しようとする生徒を育成する。これまでの反省を生かし、課題探究や発表の学習活動において、地域の方や級友と関わり合いながら主体的に学ぶために必要となる言語能力やコミュニケーションの力の育成を重要視し、ルーブリックを活用する。また、総合的な学習の時間だけでなく、各教科の授業でも、生徒に身につけさせたいこれらの資質・能力を明確にしながらか教科横断的に取組を進め、カリキュラムマネジメントの推進を目指す。

3. 活動内容

	1年	2年	3年
5～6月	・なんプロオリエンテーション（学習の目的やゴールを確認） ・新見市介護保険課職員による福祉についての出前授業	・言語活動のルーブリックを共有 ・新見市総務課危機管理室職員による防災出前授業（ハザードマップの活用）	・修学旅行で沖縄の観光業の学習
7月	・第1回公民館ふれあい交流会	・新見市総務課危機管理室職員による防災出前授業（避難所設営や土嚢づくり） ・ドローンプログラミング学習	・新見市商工観光課職員による新見市の観光資源についての出前学習 ・探究学習、発表準備
8～9月	・探究学習、発表準備 ・ポスター発表リハーサル（地域の方による指導助言）	・探究学習、発表準備 ・ブース発表リハーサル	・フィールドワークで取材 ・プレゼン発表リハーサル（商工観光課職員による指導助言）
10月	・煌南祭で「ふるさと元気プロジェクト」ポスターセッション ・第2回公民館ふれあい交流会	・煌南祭で「セイフティプロジェクト」ブース発表	・煌南祭で「地域の魅力発信プロジェクト」プレゼンマッチ発表
12月	・各学年の代表生徒が拡大学校運営協議会に参加し学校運営協議委員やPTA役員と協議		・新見公立大学の学生と交流会
1月		・神戸防災学習	
2月		・おかやま学びたい賞への出品およびフォーラム参加	
3月	・なんプロの振り返り（キャリアパスポート）・言語活動ルーブリックの振り返り		

(1) ルーブリックの活用：課題探究や発表の学習活動において、地域の方や級友と関わり合いながら主体的に学ぶために[発表][話すこと]とともに[聞くこと][やりとりすること]の言語活動を充実させることを目指し、身につけるべき資質・能力を示したルーブリックを生徒と共有した。全学年とも総合的な学習の時間だけでなく、他の教科の授業においても学習活動の内容に応じてルーブリックの評価基準を示して活用した。

(2) 1年生福祉「ふるさと元気プロジェクト」：7月と10月の公民館ふれあい交流会では、学区内の6公民館に生徒が出向き、地域の方とレクレーションや座談会を行うことで、地域の課題について学んだ。煌南祭では「福祉ポスターセッション」を行い、他学年の生徒や保護者・地域の方と意見交流を行った。



1年生公民館ふれあい交流会



2年生ブース発表

(3) 2年生防災「セイフティプロジェクト」：6～7月に新見市危機管理室職員による出前授業でハザードマップの活用の仕方、避難所設営、土嚢づくりを体験学習した。またプログラミング学習ではドローンを防災にどのように活用するか考えた。煌南祭ではブース発表において、ドローンによる救援物資の運搬などのシミュレーション飛行の披露や避難グッズの紹介や製作の体験など、参加者体験型の様々な方法で防災についての情報発信をした。1月には阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターに行き、展示やセンターの方の説明から多くのことを学び、防災学習のまとめをした。



2年生神戸防災学習

(4) 3年生地域の魅力「地域の魅力発信プロジェクト」：7月に新見市商工観光課職員による出前授業で新見市の観光資源について学び、8～9月に班別に新見市内の観光名所や店にフィールドワークに出向いて、インタビュー、試食や商品などの取材を行った。煌南祭では「地域の魅力プレゼン対決」で観光地、特産品など4テーマで、プレゼンマッチを行った。12月には地域学習を行っている新見公立大学の学生との交流で互いの学習成果の共有や意見交換を行った。



3年生フィールドワーク

(5) 拡大学校運営協議会：12月に各学年の代表生徒が学校運営協議委員、PTA三役とともに「なんプロ」および煌南祭をより充実させるために熟議を行った。



3年生プレゼンマッチ

4. 子どもたちへの効果(成果・課題)

(1) 成果：学期ごとに実施している学習アンケートの2つの質問を本研究の目標達成の指標とした。

①「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の質問項目について

※目標 肯定的な回答 R4年度2月 57.2%→今年度 80%以上 肯定的な回答 14.2%向上 ※結果 今年度 71.4%

目標値は達成できなかったが、昨年度より肯定的な回答が向上した。煌南祭で参加者によるアンケートで感想などのフィードバックをいただいたことや本番前に1・3年生は地域の方に発表についての助言や励ましをいただく機会を持ったことにより生徒が自分たちの課題探究活動に意義付けができたと考える。

②「話し合う活動では話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている。」の質問項目について

※目標 積極的肯定の回答 R4年度2月 35.3%→今年度 50%以上 積極的肯定の回答 3.3%向上 ※結果 今年度 38.6%

目標値は達成できなかったが、肯定的な回答の合計は6%の向上が見られた。この他、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」や「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」などの項目について、今年度は調査の回を重ねるごとに肯定的な回答が向上した。ルーブリックの活用により生徒が言語活動に意識して学習に取り組んだことで、生徒同士の交流の場面の質が向上したと思われる。

(2) 課題：生徒が課題をさらに自分事として捉え、なんプロの3年間の学習に見通しがもてるようにオリエンテーションの持ち方を改善する。課題探究の発表や提案に留まらず、今後は探究したことを生徒が地域で実践することでさらに学びを深められるよう、学校運営協議会と学校の協働を促進する仕組み作りを行いたい。